

「防災科研地震だねっと！」の開設と利活用に関するアンケート結果

The Opening of ‘NIED Quake map!’ and result of questionnaire survey about interest of local seismicity

*松原 誠¹、西澤 あずさ¹、青井 真¹、竹之内 耕²、平松 良浩³、中川 和之⁴

*Makoto MATSUBARA¹, Azusa Nishizawa¹, Shin Aoi¹, Ko Takenouchi², Yoshihiro Hiramatsu³, Kazuyuki Nakagawa⁴

1. 防災科学技術研究所、2. 糸魚川市フォッサマグナミュージアム、3. 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系、4. 時事通信社

1. National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience, 2. Fossa Magna Museum, Itoigawa City, 3. School of Geosciences and Civil Engineering, College of Science and Engineering, Kanazawa University, 4. Jiji Press

(1) はじめに

公益社団法人日本地震学会(地震学会)では「行動計画2012」における「地震学の現状を一般市民の目線に立って社会に伝えていくとともに、地域防災への貢献及び社会からの要請を受け止める場となることを目指す」という考えに基づき、その具体化と手段の多様化を実現するために2017年4月にジオパーク支援委員会を設立した。ジオパークでは、火山や地質・歴史地震・津波痕跡に関するジオサイト・ガイド・案内板は数多く存在するが、自分たちの足元で起きている地震活動を認識してもらう案内方法が欠けている面があった。

防災科学技術研究所(防災科研)では、ジオサイトで足元の地球の活動を可視化するという観点から、「防災科研 地震だねっと！」というホームページ(<http://www.geopark.bosai.go.jp/>、以下、当サイト)を構築し、防災科研陸海統合地震津波火山観測網(MOWLAS)で捉えた現在の地震活動や歴史地震を簡単に見られるホームページを2018年7月に開設した。これは、糸魚川世界ユネスコジオパークのフォッサマグナパークのリニューアルオープンを機に、案内板のQRコードから当サイトに接続することにより、現在の糸魚川周辺の地震活動を閲覧できるホームページである。

(2) ホームページの概要

当サイトに接続すると、過去1年間の震源分布図が表示される。色で震源の深さを、丸の大きさとマグニチュードを表している。震源分布は1時間毎に更新され、最新の地震は星印で表示されている。地図には、現在地に加え、火山・活断層・河川・県境なども表示され、周辺を含めた位置を捉えやすくなっている。震源分布図の期間は過去24時間~10年間が選択可能である。記憶に残っている過去の地震もプロットされると同時に、無感の微小地震の分布も表示されるので、足元の地球内部でどのような活動が起こっているかを診ることができる。震源分布図の下には、被害地震も列挙されているので、地元での有史以来の地震活動を把握することが可能である。

(3) 閲覧実績

当サイト開設後、毎日20-30の所外からのアクセスが確認されている。また、フォッサマグナパークにおいて団体の見学があり、糸魚川ジオパークで当サイトについて紹介した際には、50~60のアクセスがあった。

(4) ジオパークとの連携

防災科研は日本ジオパークネットワーク(JGN)と包括的連携協定を2018年10月13日に締結した。また、糸魚川ユネスコ世界ジオパークとは、当サイトの活用に関する覚書を締結した。今後、JGNを通じて、要望のあるジオパークに向けて当サイトを構築していく予定である。

(5) 利活用に関するアンケート結果と今後の展開

地震学会ジオパーク支援委員会では、JpGUの際にジオパーク向けに地震に関する勉強会を開催してい

る。2018年度には、歴史地震の利活用について説明したこともあり、JGNを通じて、全国のジオパーク協議会やジオパーク推進協議会に対して歴史地震や最近の震源分布図、地震波形の展示の希望に関するアンケートを実施した。26のジオパークと7つのジオパーク構想から回答があった。以下の結果では、ジオパーク構想についてもジオパークに含める。

歴史地震に関するジオサイトは、46%の構想中を含めたジオパークに存在した。また、地元の地震活動には、91%のジオパークから関心があるという回答を得た。しかし、現在の地震活動に関する展示が存在するのは27%であった。博物館などの展示施設や屋外のジオサイトの案内板等で地震活動の展示希望については、条件によるも含めて、82%のジオパークで関心があった。条件としての多くは費用に関するものであった。当サイトのホームページの作成・運用費用は防災科研で負担しているため、ジオパーク側ではQRコードを掲載するジオサイトでの案内板の更新や、展示施設内でホームページを閲覧できるような仕組み（例えばパソコン等）を準備していただくことになる。防災科研では、ジオパークにおいて地震活動を実感する一助となるべく、それぞれの要望に沿った領域の地震活動の図を作成・提供していきたいと考えている。

キーワード：防災科研 地震だねっと！、地震活動展示

Keywords: NIED Quake map!, display of local seismicity